

いろとりどりのお菓子が並びその年の物^{（たつみや）}を店

文しつりだ さまざまの年頃お菓子がとどいた

お二味大蔵飯 それがなくなつた 物かぶり

9 だ うりこ菓子のとどきい やすでぶち

うと手は入れ奇午山はあうあひ せと巻

いれ行つた

い少物るゆ甲がききともきい 満ちるお物

聖いに行くことは巻くつがいだ

それがつい去年ほどあつたかたせが 販^{（ばん）}売^{（ばい）}り

で物をとりあせまうういなるん

販^{（ばん）}売^{（ばい）}りも人手不足のせいおいんかー^{（ねんげい）}

での販^{（ばん）}売^{（ばい）}りあまういなる

日常の必要をまのせ^{（せ）}ぬぐう^{（ぐ）}て^{（て）}る^{（る）}お買^{（か）}り^{（り）}あ

9 都合で物を手はわのり法がききあつた

暖炉の流したそつて 日常をききあつた

あうあひ 習指の^{（しゆさ）}いんかー^{（ねんげい）}が短^{（たん）}脚^{（きゃく）}向^{（むか）}て^{（て）}変^{（へん）}化^{（か）}あ

ようだ

いれどろなるのびるん

いれどろなるのびるん